

1948年(昭和24)年
 したヤマタケ(atake.net)。98
 がロングセラー品
 だけではなく、健
 同社の看板商品。

日本茶

香りやうまみ引き出す特許製法

行錯誤を重ね、健康志向に合う「豆を使っている」とともに、上品な風味を引き出す高級素材、黒豆を使うことになった。黒豆には、血液をサラ

ていたが、その関西にも黒豆の「育てた技術」お茶はなかった。同社が日本での思いから初めて開発したものだという。海道十勝茶発売当時はすぐには広まらな

テクノロジー
 幼児向けアプリ開発

子育て中ママ社員がアイデア

アプリ開発のテシオテクノロジー(本社名古屋市中村区名駅南、服部達也代表取締役CEO、電話052・587・5580)は、同社初の幼児向けアプリ2種類の配信を始めた。スマートフォン(スマホ)やタブレット端末で楽しめる。いずれも子育て中の女性社員2人を中心にして開発した。画面に触れるとロケットや飛行機が現れたり、言葉遊びができるなど親子で一緒に楽しめる機能を持たせた。1歳半~3歳程度の子どもを持つ子育て世代にアピールする。(梶田宏行)

動きにワクワク
 親子で言葉遊び

「どっちだよ?」は、言葉遊びを楽しめるア

アプリ。画面に表示した両手に触れると、モモやイチゴ、おもちゃなどが出現。同時にそれらの名前も表示される仕組み。種類は30種類を用意。両手は母親、父親、ゴリラの3種類から選ぶことができ、対象年齢は2歳半から3歳程度。一方、「おほしさま」は、画面に触れたりなぞったりして楽しむ。星やロケット、飛行機などが現れて動き出し、子どもの好奇心をくすぐるアプリ。対象年齢は1歳半から2歳半程度。

など工夫を凝らした。アンドロイド端末向けのスマホなどからダウンロードして楽しめる。iPhoneなど「iOS」向けの配信も検討している。同社は、2005年から設立。文字や数字を入力する「数独」などのパズルゲームを中心に、大人が楽しめるスマホ向けアプリ開発を得意としている。

名古屋市の12日、一般会計を1兆571億円とする2014年度当初予算案を発表した。13年度当初比3.0%増で、3年ぶりのプラス編成となる。歳入の根幹となる市税収入は景気回復を見込み、2.5%増の5千億円。13年度から120億円増える。企業業績の好調を背景に、法人市民税は1割増を見込む。歳出では、投資的経費が18%増の893億円、扶助費が4

3年ぶりの
 プラス編成

14年度当初予算案

名古屋市長



開発に携わった女性社員と配信を始めた「どっちだよ?」

常盤産業

機械固定接着材や滑り止め塗布材
 環境対応商材を強化

機械商社の常盤産業(本社名古屋市中区富土見町、清水英敏社長、電話052・331・3191)は、環境関連事業を強化している。省エネ、防災・安全対策、法令順守をテーマ

に、主に職場環境を改善する製品を取り扱っている。具体的には、産業機械を固定する商材や紙おむつ処理機など。これまで100アイテム以上の商材を開

同社は、油圧機器やNC旋盤などを扱う産業用機械商社。顧客要望に合わせて仕様を自社でカスタマイズして販売するなど技術力も高い。

環境関連事業の専門部署「エコクリエイティブ事業部」(旧環境・安全衛生グループ)を2009年に設立。営業部隊が取引先に出向き、問題点を聞き出して、職場環境改善に役立つ適材適所なサービスを